

掲示用

長野市監査委員告示第1号

地方自治法第199条第12項及び第252条の38第6項の規定に基づき、長野市長から措置を講じた旨の通知があったので、同項の規定によりその内容を公表します。

令和元年5月29日

長野市監査委員	鈴木栄一
同	小澤輝彦
同	松木茂盛
同	高野正晴

過去の監査結果に対する措置の通知書

平成28年度 随時監査（工事監査・後期）

指摘事項	当初措置状況 (29年度)	平成30年度の措置状況	担当課	
4 施工について 高齢者・障害者等の移動に関し注意すべきもの	城山公園の駐車場区画線修繕工事において、高齢者・障害者等への配慮が足りない事例があった。 本工事は、公園内駐車場の区画線が劣化したため、区画線の引き直し作業を行ったものである。スロープ出入口付近の車いす利用者用駐車施設の区画線内に支柱等があり、車いす使用者が通るスペースを遮っているため、車いすが乗り入れることができるよう、支柱等の撤去・段差の解消も合わせて行う必要があった。 今後は、高齢者、障害者の移動等の円滑化の促進に関する法律や関係する基準等に十分配慮し、高齢者・障害者等利用者の立場に立った環境整備に努められたい。	現在のスロープは向いている方向が適切ではないため、高齢者、障害者の移動等の円滑化の促進に関する法律に基づき、あらたに車椅子用のスロープの付け替えを計画する。 現在は関係課と整備時期の調整を行っており、準備が整い次第改善を図る。 H29.6.5	関係課と整備時期の調整ができたため、車椅子用のスロープの付け替えを行い、適正な位置へ改善を図った。	公園緑地課
意見 (3) 建設工事に係る設計図書の誤りについて	市が発注した工事において、設計図書の誤りによる入札中止があったことについて、再度意見を申し上げる。 これまでも随時監査(工事監査)において、設計図書の誤りを指摘してきたところであるが、再び本監査期間内に、設計図書の誤り(単価入力と条件入力の誤り等)による入札中止が発覚した。 これは、前回の指摘後も、全庁的に有効なチェック方法の検証やチェック体制の構築がなされていなかったことが一因として挙げられる。 設計図書の誤りによる入札中止は、市民や事業者からの入札及び契約事務への信頼を著しく損なうばかりか、事業の遅延によって市民生活への影響も考えられることから、より効果的なチェック方法として、現在の積算システムとは別の積算内容を解析できる積算システムを導入し、設計者以外のものが確認を行うなどの体制の構築について検討が必要である。 再発防止に向け、職員一人一人が適正な積算が行えるよう研さんを積むとともに、決裁者においては複数人によるチェックがなされたかどうかの確認を行うなど、新たなチェック方法を確立し、設計図書の誤りが起こらない体制の整備に努められたい。	積算誤りの再発防止策として、研修会の開催やチェック方法などの見直しと部局を越えた情報の共有化に努めており、一定の効果が認められることから、今後も引き続き再発防止策の改善に取り組むとともに職員一人一人の研さんに努めていく。 また、積算誤りの根絶に向けては、新たな防止策や組織体制が必要と考えているので、新積算システムを試行的に導入した他部署の状況を検証し、複数のシステムによる積算について検討したい。 H29.6.5	事務処理適正化対策委員会 建設専門部会を4回、建設技術委員会 設計積算部会を2回開催したとともに、各課で研修会を実施したほか、全土木技術職員を対象とした全体研修を実施し、積算誤りの防止に努めている。 詳細な取組内容は下記の通りである。 ・入札中止情報や、チェックリスト更新情報等を共有フォルダへ登録し、全土木職員へメール送信し情報共有を図る。 ・積算システムへの注意情報(積算ミス事例等)を掲載するなどのシステムの改善要望。 ・2種類のシステムによる積算及び照査の実施。 ・継続的な研修の実施。 ・対応策の確実な履行。 ・職員一人一人の危機意識の持続と信頼の回復。 ・PDCAサイクルによる継続的な防止対策の改善。 ・概算数量発注方式の導入による、難易度の高い積算業務への重点的な時間配分。 H31. 1. 29	道路課 河川課 維持課
意見 (3) 建設工事に係る設計図書の誤りについて	市が発注した工事において、設計図書の誤りによる入札中止があったことについて、再度意見を申し上げる。 これまでも随時監査(工事監査)において、設計図書の誤りを指摘してきたところであるが、再び本監査期間内に、設計図書の誤り(単価入力と条件入力の誤り等)による入札中止が発覚した。 これは、前回の指摘後も、全庁的に有効なチェック方法の検証やチェック体制の構築がなされていなかったことが一因として挙げられる。 設計図書の誤りによる入札中止は、市民や事業者からの入札及び契約事務への信頼を著しく損なうばかりか、事業の遅延によって市民生活への影響も考えられることから、より効果的なチェック方法として、現在の積算システムとは別の積算内容を解析できる積算システムを導入し、設計者以外のものが確認を行うなどの体制の構築について検討が必要である。 再発防止に向け、職員一人一人が適正な積算が行えるよう研さんを積むとともに、決裁者においては複数人によるチェックがなされたかどうかの確認を行うなど、新たなチェック方法を確立し、設計図書の誤りが起こらない体制の整備に努められたい。	当課での設計図書の誤りについて、直接原因は単価入力ミスであり、対照表の中から条件に合う単価を抽出する際に、一行ずれた位置からの単価を採用してしまったものである。さらに照査漏れが重なったことについては、階層構造である積算システムの深い部分での単価であったことや、工種が任意仮設工であり、受注者が任意に選択できる部分であったことから、確認が充分でなかったことによるもの。 再発防止策としては、単価採用に関して、条件表にアンダーラインを入れるなど、設計者自身も照査者も容易に確認ができるようにしたり、複数で照査する体制や聞き取り照査の体制を整え、改善を図った。 現在の積算システムとは別の積算内容を解析できる積算システムを導入については、予算措置が必要なことや入力作業に一定の技量が必要なことから、先行して導入した課の運用状況を見ながら、検討してまいりたい。 H29.6.5	現在の積算システムとは別の積算システムを導入し、複数のシステムにより設計照査を実施している。	都市計画課